小さな幸せの源泉について考える

梅田 富雄（化工会）

毎日の生活の中で、特別にストレスを受けることもなく、心身ともに安定して日々を過ごしていることは、そのこと自体幸せなことであると思います。前に状況認知と対応について投稿しましたが、このことと関連して、何かのストレスを受けるような状況に遭遇したときには、どのように状況を認知し、ストレスの解消につなげる対応をするかが問題になると思います。多くの場合、無意識に自分に利するような幸せな結果になるような対応を考えて行動するのではないでしょうか。

ストレスを受ける原因は種々さまざまですが、処理しなければならない事柄が思うようにならないとき、ストレスが発生し、時にはイライラすることにもなると思います。

何時までも一人で悩まずに、抱えている問題解決に助けが求められる人がいるときはその恩恵を受ける行動をとることがストレス解消の方法の一つであると思います。このようなことはだれでも承知していることでしょう。身内に相談して共に解決に向けて話し合うことで、解決の道筋が見えてくることも多々あると思います。時には相談を受ける側で、悩んでいる人から助けを求められることもありますが、この時にとるべき態度は、利他性を重視して支援することがよいのではないでしょうか。ここで利他性というあまり聞かない言葉を持ち出したのは、「利他性の経済学」舘岡康雄著を読んでいたことから、このことを身近な問題として考えてみたいと思ったからです。

この本のまえがきから少し引用しましょう。「産業革命この方、自身の最大価値を実現するのが経済合理人であるという経済理論の前提を、私たちは信じこまされてきたにではないだろうか。このような経済合理人を単位として、政治も経済も、学問も、数学までもが組み立てられてきた。・・・逆説的に言えば、人々がそう信じてこなかったなら、他者の利益を優先したり、蜜蜂のように全体の利益のために自信を犠牲にしたりする行為が洋の東西の歴史を問わず、称賛されたりなどしなかっただろう。それは一般化できない、稀有なことだったから

こそ、価値があったのである。だがそのような自己利益の追求の結果，今、世界は解決困難な様々な問題に直面している。環境問題にしても、テロ行為にしても、文明が衝突して、混迷を深めるばかりだ。・・・自信の最大利益のみを実現すればこと足りるとする原理は。もはや適用できなくなってきているのだ。・・・これまでの常識に抗して，他者が自身に対して一定程度の利他的な行動をせざるを得ない、・・・21 世紀には、このような支援行為をお互いに普通にとりあうようになっていかざるをえないとしたどうだろう。これまでのように，他者から奪ったり、他者を管理したりしても、自己の利益を最大化できない世界に、私たちは入りつつあるのだ。」

利他性を重視する行為によって関係者が相互に幸せを感じられるとすれば、日々の生活でこのことを念頭において行動することによってストレスがない、または少ない状況を創り出すことができるように思います。

最近直面した二、三のことを紹介しましょう。

かなり古い話ですが、英国でバス旅行中の出来事、片側 2 車線の高速道路で、前方が空いている状態を確認し、後続の一般車に追い越して行くように合図していた情景を今でも鮮明に記憶していますが、このような運転手の行為は利他性重視の典型ということができますが、一方、最近よく経験することとして、市内バスに乗っていて、片側 1 車線の道路で、バスが停留場から発車するとき，後続の一般車や大型トラックなど自分の車を減速してバスに発車を促すような状況にお目に掛かったことがほとんどなく、同じように右折するときに反対車線の車は一時停車して右折を促すこともほとんどなく、同じ会社のバスが来て右折を促すのを待つことが多い現実を目の当たりにすると、利他性の欠如が鮮明に出ていると思われます。日英のこのような違いは、公徳心ともいうべき行動規範の違いとして理解せざるを得ないように思います。

もう一つ最近経験したことをお話ししましょう。

所得税の確定申告に当たり、e-Tax で何かの間違いで理解できない高額納税の結果がメールで連絡され、税務署に連絡して、申告書の更正が必要との連絡を受けて、税務署に行き更正の手続きを行いました。その際に担当の相談担当の女子職員は、ご自身のオフィスに戻り更正前の申告内容をパソコンでトレースしていただいたようで 1 時間以上も丁寧に指導していただき、手続きを済ますことができました。この結果、自分のストレス解消に多大の支援をいただく結果となり心から感謝した次第です。感謝の意味で菓子折りを持参し,手渡すつもりでしたが、公務員規定により受け取ってもらえず、奥さんと一緒に召し上がってくださいとの暖かい言葉をいただき、自分の行動が恥ずかしく感じた次第で

す。昔からの微笑ましい習慣もどこかで悪例が出て規制が強化されたのではないかと思いますが、残念なことです。担当の女性職員の利他性重視の行為は、サービス精神が身についており、税務署の現場は依然質が高いのに、官僚トップの最近の無様はあまりに対照的であることを実感しました。

最後に、先の本のまとめの部分を紹介してまとめとしたいと思います。

「もし、1 国が他国に輸出してよいもの・ことがあるとすれば、それは支援のみである。それ以外のことを輸出しようとすれば、必ず蔭のように不善が伴っているのである。・・・20 世紀はアメリカが一番だった世紀ということに反対する人はそれほど多多くはないかもしれない。資本主義と自由主義と民主主義が 20 世紀のレザルトパラダイムに適合的だったからこそ、アメリカが伸びられたとするのが、本書の結論である。・・・賢明な読者諸氏ならすでに言葉に浮かんでいるように、資本を中心にするのではなく、心や精神を中心にし、支援主義を標榜し、自分と世界の他の人々や将来世代、世界の他の人々や将来世代と自分がお互いに担保しあう存在原理に則って進むことが、自国も世界も生き残っていける道である。・・・そして、そうしたことに転換できる国々や企業や組織が生き延びていくことができ、家庭も個人も病気に罹らず、健康で楽しい人生を送っていくことができるのである。」まさに著者がいうように本書は支援の哲学と呼ぶにふさわしい内容になっていると思います。状況認知と状況対応に関連して行動規範として利他性を取り上げる必要性を痛感し、日ごろの経験と関連付けて考察してみました。（2018 年 4 月 24 日）